

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和8年3月15日
調査研究事項	I. 教育課程、教育環境整備に関すること ～外部機関と協働したインクルーシブ教育の推進～
調査研究のねらい	<p>1 不登校学齢生徒や不登校経験者の「学び直しの場」としての夜間中学の活用について、区内の全中学校と連携しながら、これまでの研究成果を都内夜間学級及び全国の夜間学級へ普及させていく。また、特別な支援を必要とする生徒への支援について、区教育委員会こども支援センター等の外部機関との連携・推進方法について研究する。</p> <p>2 日本語を母語としない生徒の進学・就労を支援し、貧困の連鎖の遮断や多文化共生社会の実現に活かすことを目指す。また、日本語を母語としない生徒が多い本校の実情を踏まえ、あだち日本語学習ルームや通訳などの外部機関・外部人材を有効活用し、生徒の理解を促進し、学びを深めるとともに、教員の負担軽減にも資する教育活動の在り方について研究する。</p> <p>3 日本語教育の充実のため、大学等と連携した研修会を実施し、教職員の日本語指導能力の向上を図るとともに、誰一人取り残さない指導・支援の在り方について研究する。</p> <p>4 本校独自で活用している日本語教材のデジタル化及びタブレットを活用した自学自習教材の作成について研究する。</p> <p>5 高齢生徒や歩行が困難な生徒の移動負担、また全ての生徒の経済的負担の軽減を図りつつ、体験活動等においてより充実した教育効果を挙げ得る校外学習の在り方について研究する。</p>
調査研究の内容	<p>1 学齢不登校生徒や日本語を母語としない生徒の「学びの場」としての夜間中学の活用について、教育委員会教育相談課等と連携し、不定期な登校における学習支援の在り方や、あだち日本語学習ルームと連携した指導方法を検証する。</p> <p style="text-align: center;">不登校生徒については、NPO法人カタリバによる支援</p>

体制の確認や他機関との協働体制を構築したことにより、学齢不登校生徒や特別な支援を必要とする不登校生徒に対するアプローチ方法を得ることができた。一方で、障害特性から起こる様々な課題も判明したところである。今年度は、昨年度までに得たノウハウのさらなる活用とともに、都内他の夜間中学への伝達や課題解決方法の共有などを進めていく。

日本語を母語としない生徒については、あだち日本語学習ルームと連携した教材（本校独自の日本語テキストや「やさしい日本語」）の使用や、夜間学級で作成したICT教材の活用等を図りながら、日本語を母語としない生徒の「学びの場」としての夜間中学について、継続的な調査・研究を進める。

本夜間学級では特別な支援が必要な生徒が増加している。令和6年度は、新たな入学者の約7割の生徒が特別な支援を必要としている状況であった。区教育委員会との連携、SC・SSWや医療・福祉機関との連携を通して、インクルーシブ教育の更なる推進について研究する。

さらに、年2回、足立区内全中学校を訪問し、校長らとの意見交換を通して不登校生徒や日本語を母語としない生徒の状況を把握するとともに、過去の事例などを踏まえ、夜間学級への適性等を共有する。併せて、中学卒業と同時に高校進学がかなわなかった生徒が、夜間中学を経て高校進学を果たす流れを確立する等、不登校等既卒者や外国籍生徒の高校進学支援の充実についても研究していく。

昨年度は、区内中学校を卒業した不登校経験のある生徒4校5名が、新たに学び直しとして夜間中学へ入学した。本研究を通じて、夜間学級の多様なニーズ（外国籍・高齢者等）の中に、不登校学齢生徒や不登校経験者の「学び直し」があること、また今後そのニーズがさらに拡大していく可能性が極めて高いことを、不登校生徒の増加や高校中退者の増加等を根拠として全国に向けて発信する。

2 中国語等の通訳者を活用し、授業補助はもとより、学校行事の説明等を通して行事への参加を促している。また、生徒の意見を学校行事に反映させることで、生徒の学校生活の充実を図る仕組みづくりを推進する。さらに、通訳を介した教育相談を定期的実施し、学習上や生活上の困難を改善し、指導を充実させる取組を探究する。

3 お茶の水女子大学大学院等、日本語指導を研究している大学と連携した研修会・講演会等を通して、より効果的な日本語の指導方法等について探究する。

	<p>4 本校独自の日本語教材のデジタル化を推進するとともに、一人一台タブレットを活用した自学自習教材の作成を進める。さらに、ICT支援員を活用した校内研修会を通して教職員のスキルアップを図るとともに、生徒の個別最適な学びを推進する。</p> <p>5 校外学習や体験学習は、生徒にとって特別な体験を与えるものである。特に、今後国内で生活する日本語を母語としない生徒にとっては、新たな知見を得る機会となり、生徒本人の成長に大きく寄与するものである。</p> <p>バスを借り上げることで、高齢生徒や歩行が困難な生徒の移動負担を軽減するとともに、生徒の経済的負担を増やさずことなく移動時間を短縮させ、見学場所を増やし、体験活動をより充実させることができる。特に京都・奈良の修学旅行では、より多くの神社仏閣、史跡や世界遺産を巡ることができ、日本の伝統と文化を体験することができる。今年度も見学場所や体験内容について、生徒の成長に資するよう、より有意義な学習となるよう計画・実施する。</p> <p>また、実施の成果と把握した課題を次年度の計画に確実にフィードバックし、充実のサイクルを構築することについても探究していく。</p>
調査研究の方法	<p>3つの班に分けて研究計画を作成し、調査研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修班 校内研修の企画・運営（特別支援教育、ICT利活用、外部人材との連携等） ○ 日本語指導班・ICT推進班 日本語指導教材のデジタル化 ○ 生徒支援班・外部人材活用班 特別な配慮を必要とする生徒に対する外部人材を活用した支援
調査研究の成果	<p>本年度は、各担当に分かれ、「教育課程、教育環境整備に関すること～外部機関と協働したインクルーシブ教育の推進～」をテーマに研究を推進した。</p> <p>校内研修班は、年間4回の研修を企画・運営した。第1回は、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」について理解を深め、同法の基本理念の一つである「年齢又は国籍等にかかわらず、能力に応じた教育機会を確保するとともに、自立的に生きる基礎を培い、豊かな人生を送</p>

ることができるよう教育水準を維持向上させること」の具現化のために夜間学級が果たす役割について理解を深めた。第2回は、お茶の水女子大学大学院の教授を招き、「日本語指導能力の向上と誰一人取り残さない指導・支援の在り方について」をテーマに研修を行った。第3回は、お茶の水女子大学の講師を招き、多文化共生社会の実現に向けて夜間学級に求められる就労と学習の両立支援、合理的配慮の線引き、公平と公正のバランス、文化・宗教と校則の対話など、現場には「正解のない問い」が多いことについて学んだ。第4回は、認定特定非営利活動法人カタリバの職員を講師として招き、フリースクールと中学校夜間学級の連携の在り方について理解を深めた。

日本語指導班とICT推進班は、足立区立第四中学校夜間学級自主教材の見直しと、自校作成の日本語教材テキスト「にほんご1」「にほんご2」のデジタル化を行った。また、ICT利活用のために必要な「ツールについての情報収集」や「高齢生徒や外国ルーツの生徒を想定した授業設計」についての校内研修を企画・運営するとともに、ツールに関する情報を年間を通して収集し、職員用電子掲示板で共有した。

生徒支援班と外部人材活用班は、校内研修班と協働して、お茶の水女子大学大学院等、日本語指導を研究している大学と連携した研究会・講演会等を実施し、より効果的な日本語の指導方法等について探究することができた。昼間の中学校以上に多国籍・多文化の生徒が在籍する夜間学級では、日本の常識では想像しきれない出来事が生じることがあることを改めて確認し、今後一層多文化化する日本社会を担う、また担っている人々を教育する場として、どのように包摂していくかについて考察した。

また、夜間学級の特徴でもある外国籍の生徒たちが学習に励むための負担を少しでも軽減するため、通訳を配置した。区の予算と本事業の予算を合わせ、週2回通訳者に来校してもらうことができた。さらに、外部指導員（通訳介助者）を必要と考えられる行事に活用した結果、生徒の行事等への理解が進み、円滑に行事を実施することができた。

さらに、修学旅行においては、区費によりバスを借り上げることで、高齢生徒や歩行が困難な生徒の移動負担を軽減するととも

	<p>に、生徒の経済的負担を増やすことなく移動時間を短縮させ、見学場所を増やし、体験活動をより充実させることができた。</p> <p>このように、本年度も様々な研究実践を通して、夜間学級の教育を前進させる成果が得られた。この研究成果は、本校夜間学級の生徒に還元されるだけでなく、足立区内やその近辺に在住する義務教育未修了者や不登校生徒の学習権保障にもつながっていくものであると考えている。</p>
調査研究の年間計画	
4月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用）
5月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○校内研修会（職員会議にて） ・年間の調査研究事項の確認 ・調査研究計画作成 ・研究組織作成 ①校内研修班 ②日本語指導班とICT推進班 ③生徒支援班と外部人材活用班
6月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○各班会（分担決め） ○NPO法人カタリバとの顔合わせ
7月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用）
8月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○校内研修会
9月	○校外学習（修学旅行の実施） ○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○足立区内中学校訪問
10月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○校内研修会
11月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○校内研修会
12月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○校内研修会 ○区内学齢生徒夜間学級体験受け入れ
1月	○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○校内研修会 ○区内学齢生徒夜間学級体験受け入れ

2月	○研究の成果と課題のまとめ ○研究のまとめ（報告書作成） ○足立区立第四中学校夜間学級PR活動（駅情報スタンド利用） ○区内学齢生徒夜間学級体験受け入れ	
----	---	--